

■ 平成 29 年度 第 2 回 新潟市立西川図書館協議会

日 時：平成 29 年 11 月 21 日（火）午後 1 時半～

視 察：潟東図書館・岩室図書館・巻図書館

議事会場：巻図書館 講座室

（小林会長）

それでは、早速、議事のほうに入りたいと思います。

最初の議題からですが、1 番目に「平成 28 年度図書館評価」ということで、事務局のほうから説明をお願いいたします。

（事務局）

お願いいたします。資料 1 「図書館協議会における図書館評価」と、A3 サイズの評価していただく内容の資料をご覧ください。

資料 1 です。新潟市立図書館ビジョンについては第 1 回目でお話し申し上げました。今回は平成 28 年度の評価をしていただきますが、記載の内容は西蒲区の 4 図書館分になります。数値によっては、三つの地区図書室も含んでいます。シート No. 1 ご覧いただきたいと思います。

新潟市立図書館ビジョンの四本の柱ごとに、新潟市立図書館全館での共通評価項目と、西川図書館が特にこの部分に力を入れるというものの二つの評価項目が書いてあります。例えば左側の区分を見ていただくと、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」については、新潟市全体で同じ評価項目となっているものが「課題解決のためのレファレンスサービスの充実」で、その内容は右側の概要に書いてありまして、次に実施結果と自己評価、図書館側の評価が書いてあります。皆様をお願い申し上げたいのが、今日お持ち帰りいただきまして、右側の外部評価というところを 3 段階で評価していただき、もし感想とかご意見とかをいただけるようでしたら、一番右端の空欄のところにお書きいただくという流れになります。

では簡単にご説明申し上げます。

「ネットワークを活かした課題解決型図書館」では、西川図書館では「レファレンスサービスの周知」を行いました。調査研究ということなのですが、先ほど岩室図書館の 2 階の書庫の中でも少しお話ししたのですが、広辞苑の第 1 版を取り寄せてほしいというようにストレートなこの本がほしいというような要望だけではなく、図書館の場合、いろいろな質問のされかたがあります。昔々から日本語がどのように変化してきたか調べたいのという依頼があったときに、では資料として『広辞苑』で古いものではここまでありますとか、そういう説明を図書館の職員が行います。そして本だけではなくてインターネット情報などの提供もいたします。

レファレンス調査研究ということを図書館で行っていることをご存じない方も多いため、これについて広報するという西蒲区の図書館では目標といたしました。

二つの全館共通評価項目、館の重点評価項目についての実施結果は記載のとおりになります。特に「レファレンスサービスの周知」については、隔月で発行している『西蒲図書館だより』で、レファレンス特集号としてPRしました。その結果、西川では減少いたしましたが、三つの地区館では増加し、4館で14.5パーセント増加いたしました。自己評価といたしまして、今後も効果的な手法を検討しながらレファレンスの広報を継続するということを考えています。

レファレンスだけでなく、所蔵調査ということもあります。今日いろいろな図書館をご覧になられて、岩室図書館は古い本が多いと思われたと思うのですが、新潟市の全19図書館ではネットワークが組まれておりまして、どこの本もどこの図書館からでも検索ができて、毎日車が回っていますので簡単にお取り寄せができますので、本がないと思ってあきらめるのではなくて、職員に聞いていただくといろいろな手立てができるということです。これが「ネットワークを活かした」ということなのですが、これについてもどんどんPRしていきたいと思っています。

次に2番目、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」です。全館共通評価項目が、「地域資料の体系的な収集と活用」した。これは、どこの図書館でもいろいろな地域の資料を手に入れることができますが、例えば巻の地域の方が個人的に発行されたものとか、そういうものは巻の図書館でなければ集めることが難しいものもあります。そういうものをきちんと集めていこうというものです。

西蒲区では、各図書館で各地域資料のコーナーを新設いたしました。これも今日の視察でご覧いただけましたでしょうか。図書館が各地域の資料の収集に力を入れていることを周知して活用促進を図りました。その結果ですが、その地域の資料が目につきやすくなり、利用が増えています。数値については、資料No.2のほうでまたご説明申し上げます。

3番目、「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」です。全館共通評価項目は、「子どもの読書環境の整備」といたしました。ここではブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを拡大し、うちどく（家読）を推進するといたしました。実施結果を見ていただきたいのですが、今日、潟東で「うちどく」についての掲示、展示物がありました。西蒲区においては2年前から西川図書館で、今年から潟東図書館で、学校と公共図書館とコミュニティ協議会と連携するような形で取り組んでいます。これは西蒲区の図書館だけで行われているものです。

館の重点評価項目は、「区内で活動する読み聞かせボランティアのスキルアップ」ということを考えました。具体的には、読み聞かせボランティアの養成講座を西川図書館で開催いたしま

した。ここでは、西蒲区を中心に46名の参加がありました。参加した方は、学校で読み聞かせボランティアをやっている方もいらっしゃいましたし、公共図書館の中で読み聞かせボランティアをやっている方、それから老人福祉施設でやっている方、いろいろな方がいらっしゃいました。自己評価では、参加者46名のうちアンケートに答えられたのは37名でしたが、講座の内容が参考になったと回答したのは24名の方がいらっしゃいました。たくさんの自由記述がありまして、絵本の読み聞かせが本との出会いだけではなくて人との出会いにもつながると感じたというような記載もありましていい評価をいただいたと思っています。

最後、「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」では、全館共通評価項目は記載のとおりです。館の重点評価項目としては、「図書館利用者の意見を聞く機会を開催」ということを考えまして、図書館利用者懇談会を開催いたしました。実施結果、5年ぶりに開催いたしました。14名の参加者からさまざまなご意見や質問をいただくことができました。今回は図書館からの説明が多くなり、皆さんの意見を聞くことができなかったということアンケートにお書きいただきまして、これは反省点になりました。シートNo.1については以上です。

(事務局)

シートNo.2を説明させていただきます。

こちらに載っているものは、平成28年度の実績等を数値で説明したものです。評価シートNo.2に記載のとおり、こちらの表の自己評価の欄に3、2、1と数字が記載してあります。ここは平成28年度の目標値に対して、平成28年度の実績が達成できているかという評価になります。1が目標に達しなかった場合、2が目標を下回った場合でも80パーセント以上達成している場合、3は目標を超えた場合です。

外部評価に関しましては、委員の皆様からそれぞれこの内容を踏まえた上でシートNo.1と同じように評価していただくような形となります。

内容についてご説明させていただきます。

上段を見ていただきますと、図書館運営という区分のところで評価指標がございます。基本的サービスの部分で資料購入費を見ていただきますと、平成28年度分が大きく減少しています。これは、巻図書館開館後の5年間の資料補充分がなくなったためにこの数値となりました。続きまして、蔵書点数は前年度とほぼ同様くらいの数値になっています。

続いて個人の貸出点数ですが、前年度比で微減となっています。西蒲区の人口が1パーセント程度減少していたとことが理由の一因ではないかと考えました。

次の個人の登録者数と、入館者数ですけれども、こちらは前年度と同程度の数値となっております。

下の表の施策・事業の評価指標の数字について、それぞれ説明いたします。

一番上、レファレンス件数ですが、シートNo.1で説明があったとおり広報を積極的に行った結果、件数が増加したものと考えます。

続きまして、個人の予約件数です。自己評価に記載がありますとおり、昨年度に比べて増加率は少ないのですが、予約、リクエスト、サービスの浸透にともなって年々増加している傾向を見ることができます。

次の「特色ある地域づくりに寄与する分館型図書館」の中で、郷土・行政資料の貸出冊数の部分ですが、これも先ほど説明があったとおり、各図書館で地域の資料コーナーを設置しPRしたことにより出が促進されたものと考えております。

続いて職員の派遣人数の45は潟東図書館が毎月潟東デイホームで絵本の読み聞かせ等を行っている結果、この人数となっております。

次の公民館等との連携・協力事業数については、記載のとおりです。

少し飛びまして、小・中・高等学校への団体貸出冊数が減少していますが、自己評価にも記載のとおり学校図書館の充実が要因の一つと考えました。

その下の子ども・親子対象事業の参加者数が大幅に増加していますが、平成28年度から対象の事業が変更になったためです。同様の基準にした場合、平成26年度が2,366、平成27年度が2,383になります。それと比較しても平成28年度が3,269とかなり大きく伸びているのは、西蒲区地域課と共催した「輝く子育てフェスティバル」や、オペラスタジオと共催したクリスマスコンサート等、参加人数の多い事業を行うことができたためです。その次の職場体験受入人数については、今回学校からの依頼数が少なかったこともありますが、今後は受入れについて日程調整の上、引き続き積極的に行っていきたいと考えております。

進みまして、「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」の一番上、図書館ボランティア活動者数についても、平成28年度、対象事業が変更になったため数字が増加しております。対象事業を同様に数えた場合は、平成26年度が894人、平成27年度が991人となります。それと比較しても、平成28年度1,021人という数字になって微増という結果となっております。

その下、ボランティア団体交流会に関しましては、ボランティアの都合によって参加者がいなかったのが0という数値となっております。

共催・協働事業の実施件数は図書館で活動するボランティアさんとの協働をメインに、この数値となりました。

最後に「効率的・効果的な運営（職員）」の研修参加職員数については、記載のとおり増加したというところでこのような評価を付けさせていただきました。

駆け足ではありましたが、これでシートNo.2についての説明を終わりたいと思います。

(小林会長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局から資料1シートNo.1, 2ということで図書館評価についての説明がございました。何か説明の中で、質問とかご意見とかお願いいたします。いかがでしょうか。

(高木副会長)

シートNo.2のほうなのですが、ボランティア団体交流会に参加した人がいなかったということですので、この辺、これからどのように。

(事務局)

今年度は先日、西川図書館で活動されている読み聞かせボランティアの交流会を行い4名の方に参加していただきました。

また、中央図書館においても、情報交換会として新潟市で活動している読み聞かせボランティア団体が一堂に集まって情報を交換する機会があり、西蒲区からも参加していただきました。引き続き、そのように活動していきたいと考えております。

(高木副会長)

これはぜひ続けていってほしいと思います。

こういうところでどんどん増えていくというか、読書の、子どもたちを育てる方向に、交流会の中でなんとかしようではないかというような思いが盛り上げてくるのではないかという感じがしますので、ぜひお願いしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(小林会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(大西委員)

「ネットワークを生かした課題解決型図書館」のところで、ビジネス支援サービス相談受付件数が平成28年度0なのですけれども、これは巻で昨年からはじめたものですか。

(事務局)

巻で昨年開催したものはセミナーです。

(大西委員)

セミナーがあっても相談とかはないのでしょうか。

(事務局)

ビジネス支援サービス相談受付件数は横線が引いてあるのですが、ビジネス支援の件数としてカウントしてここに評価指標を載せているのは重点的に取り組んでいる中央だけです。巻で

も相談はあります。

(大西委員)

分かりました。そういうことですね。

(小林会長)

他にいかがでしょうか。

ないようですので私から。質問といいますか、シートNo.2の一番下のところで、研修参加職員数の延人数のところは176人ということで増えているかと思うのですが、これは非常に大事な話で、いろいろな行事がある中でこういう数をひねり出すということはけっこう工夫とか何かあったのではないかと思うのですが、そういう工夫とか何かがあれば教えていただきたい。

(事務局)

平成28年度にレファレンス研修などが行われたのですが、その研修は会場に集まって行うというものではなくて、その館の職員に与えられた課題を研修として自己研鑽し、その業務の中で手が空いた時間に行っていくというような方法でした。それから、全職員参加の研修だったので数値が伸び、時間がない中で研修を行うということが可能だったと考えております。

(小林会長)

ありがとうございます。

(事務局)

職員研修については意識して取り組もうとしているのですが、例えば中央図書館で全職員を集めようと思ったときに、巻から中央まで車でも1時間かかるということを考えるととても難しいです。それで今のような、集まらなくてもよい、集合型ではない研修を意識的に行っております。

(小林会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

出ないようであれば、また最後にお気づきの点があればお伺いしたいと思いますので。それでは2番目の「平成28年度西川図書館決算報告について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料2の平成28年度西蒲区図書館決算書ということで、事前にお配りしてあるA4のものをご覧ください。

内容的には、事前配布してありますので確認されたかと思いますが、ご覧のとおりとなります。最終的に合計は、予算額7,150万9,000円に対しまして決算額は7,099万3,000円、予算残額は51万6,000円となっております。

西川の管理運営費と巻の管理運営費では、工事とか修繕で大きなものがありましたので、予算が大幅に超えてしまいましたが、全館の予算でやり繰りをしながら経費を出しております。

(小林会長)

ありがとうございます。それでは、事務局の説明で質問や意見があればお願いいたします。

(大西委員)

失礼ですけれども、西川とか巻というのはどういうことで予算が。

(事務局)

西川は館が大きいものですから、その設備で空調の機械の故障やホールの設備の故障などの修理がありました。巻も施設が古くなり修理が多くなっています。

(小林会長)

ありがとうございます。この辺、難しいですね。

他にいかがでしょうか、この件について。

(大西委員)

壊れたので今日も空調が効かないわけです。壊れると直すという感じなのですね。例えば定期的にメンテナンスとかは行わないのでしょうか。

(事務局)

メンテナンスは行っています。そのときにわかればいいのですが、やはり機械ですから突然、使い方によっては細部がおかしくなることがあります。そうなるこちらも緊急的に対処ということになります。メンテナンスは業者もやっていますので、そこで大きな被害を出さなくてすんでいる状況です。

(高木副会長)

巻でしたか、岩室でしたか、いろいろと設備があるわけです。そういうものがあって非常に立派だと思うのだけれども、使えば使うほど故障したりして運営費がかかっているわけです。例えば、あれだけのものがあるのだから使い切ったほうがいいのではないかと思うのだけれども、使えばまた今度それだけの経費がかかってくる。その辺の按配が非常に難しいと思うのだけれども、あれだけのものをおおいに利用していくためにはこれだけの費用が必要だというようなこともどこかで訴えていかなければいけないのではないかと思います。

(事務局)

たしかに、やはり西蒲区の建物はオリジナルなもの多くて修理も経費がかかり、使用にあたってコストがかかります。

(事務局)

費用対効果を考えながらやらないとどうしようもないと思います。先ほど岩室図書館をご覧

になられた山本委員が、この部屋は借りられるのですかとか2階の部屋を見ておっしゃっていたのですが、あそこの地域には公民館もあって施設がたくさんある。図書館の本来業務として貸出はしていない、あるので使っていただくということをする、そこでまた光熱費もかかり、職員の手間もかかるということを見ると難しいのかと思います。

(石井委員)

使用料は取らないのですか。

(事務局)

貸出するための施設ではないのです。

(石井委員)

ここはどうなっていますか。

(事務局)

ここも違います。お金をいただいて貸出する施設ではないので、通常は学習をするための部屋で、あとは事業やこのような機会に講座室として利用するような形なのです。西蒲区の図書館で貸出しをしているのは多目的ホール西川だけです。

(石井委員)

潟東はゆう学館として一つの。

(事務局)

全体ですね。

(石井委員)

上は使用料を取って。図書館とまた別。

(事務局)

はい。

(小林会長)

よろしいでしょうか。最初の議題、図書館評価も含めて疑問な等あればと思いますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、二つの議事が終了しましたけれども、時間もありませんけれども、せっかく今回各地区の図書館を見ましているいろいろ気がついたこととかあるかと思いますので、順番に一言ずつ何か言っていただければありがたいと思います。

(高木副会長)

みんな、見たのはだいぶ前なのだなという感じがして、今、だいぶ変わってきたということです。それだけ地域からの要望があつて変えていく、あるいは市政もいいものにしていこうというものがあつた。そしてそれをうまく利用していくためにはやはり地元でPRしながら、先



ほど佐藤委員と話していたのだけれども、自治協議会、自治会のところで区長とか会長とか集まるそういう連合会のようなものがあるのですそうが、そういう会で見てもらうような形、そしてそれをPRしていく、いろいろな団体が見ていく、それを受入れる体制もあっていいのかなという感じがしました。今日はいろいろ見せていただいてよかったなと思ったのですけれども、これだけいいものをどうやって地域の人たちが利用できるか、いろいろ図書館の人たちも頑張っているのだけれども、やはり一緒になって守っていかなければいけないという感じがしました。

(山本委員)

今日はたくさん図書館を見せていただいて、私は初めてだったのですけれども、やはりその図書館に入るとその図書館の雰囲気というものがあると感じました。

この地域にすごくいくつも点々と充実した図書館があって、これだけあると、もし自分がここに住んでいたらどういふふう利用するだろうと考えたのです。そうなったときに、各図書館の中で利用者の傾向とかがあって、何とか図書館はこういうものが多く借りられているとか、この地域はこういうものが多いとか、何かそういうようなもので少し軽重をかけたりして、その独自の特色とかそういうものもあってもいいのかなと思ったりしました。でもそうすると地域の方々がほしい資料が手に入らなかつたりするのかなとも感じました。先ほどもお話ありましたけれどもPRとか、そういったものがあるといいかなと思いました。

それから、先ほどのシートNo.2のところ、子ども、親を対象にした参加者数だと大幅に増えて、ありがたいなと思ったのですけれども、そのぶんが貸出数にどれだけ影響しているかと思ったときに、貸出数はそんなに前年と変わっていないということは、イベントを開いたあとに、そのイベントをもとにして本と結びつくような取り組みを行うとか。イベントをやっていない期間のほうが多いと思うので、いかにそのイベントを利用してリピーターを増やすのかというと、我々も小学生に読書週間で事業などを行うと本を借りるのですけれども、それ以外のときにどうもってくるかということが一つ鍵だと思います。具体的な策は思い浮かばないのですけれども、そんなことを思いました。

(石井委員)

ボランティアもしているのでその立場から言うと、利用者を増やすためには、やはり先ほど言われたように、何かイベントをやってそこから広がっていくということ必要な時代なのかなという感じもします。ただそれが本を借りるまでに至るのかというと、先ほども言ったようになかなか難しいのですが、とにかく図書館に来てもらうことが第一段階という感じで、来てもらう工作も含めた読み聞かせなどのイベントあつての読み聞かせというのが充実していれば、だんだんその人たちが本も借りてくれるようになるのではないかという思いで、私はボランテ

ィアとしてやっていきたいと思っています。

(福島委員)

岩室の住人なのですけれども、毎日あそこを通勤しているのですけれども、岩室図書館の2階、一つの部屋しか入ったことがなくて、初めてあそこに入らせていただいたのですけれども、ああもったいないなというのがありましたし、いろいろありますので、外に貸し出せないのだと、やはり今お話があったように、何かしなくてはいけないのですけれども、でも今日の岩室図書館の方たちがそれをするまでにはなかなか大変かなと思ったのと、やはりボランティアの方たちがもっと出入りしていいのかなと思って。

あそこは、ボランティアの方はいらっしゃるのですか。あまり地域にいてもよく分らないのですけれども。

(事務局)

ほとんどいらっしゃらないです。

(福島委員)

そうですね。

(事務局)

読み聞かせの方がいらっしゃらないのは岩室図書館だけです。

(福島委員)

そうなのですね。読み聞かせをしている方から図書館でやらせてほしいと言ったら断られて、結局岩室小学校で行っていると聞きました。職員の考え方もあるのだと思うのですがもう少しボランティアに対しても開いてほしい。3館回って一番暗い感じがしました。

もう一つ分らないので教えていただきたいのですけれども、予算の取り方なののですけれども、これは決まっているのですか。例えば利用冊数が少ないとか、何かすると減らされてというものののですか。

(事務局)

資料購入費は、合併前にそれぞれが持っていた資料購入費をもとにして、新潟市全体で同じような配分をしばらくはしていましたが、オンライン化実施を機会として、どうやったら効率的に使えるかということを考えまして、本を入れることができる収容可能冊数と、プラス利用状況をみて再配分を行いました。

(福島委員)

やはりこういう施設は、必ず設備は壊れますので、例えば壊れそうだからこの予算を取っていくとか、そういうことは行っていますか。

(事務局)

状況を見て予算が必要だということは伝えていきますが、やはり緊急性がなければ難しいです。

(事務局)

大きな修繕費がかかるものは、新潟市全体の中で優先順位を付けて順番に計画的にやっていくというような手法を取っています。

(福島委員)

ありがとうございます。以上です。

(大西委員)

見せていただいて、図書館は厳しいなと思いました。人口減だし予算は減らされているし、そして本離れも進んでなかなか借りる人も少なくなって、その中で建物が老朽化して行って、そして使われないけれどもお金はかかる、そういう状況の中でこれから図書館はますます厳しくなっていくなという思いがしました。

あと、やはり人口的に考えると、潟東くらいのこじんまりとした図書館が本当は西蒲区にはいいのかなと、少し思いました。あそこは小さいけれどもすごくまとまっていて、何か明るくて来やすい雰囲気があってなかなかいいなと思いました。巻図書館も空調が壊れていて、これではやはり利用者の方にとっては困る、やはりこの寒いときに壊れてしまって、やはりその辺何とかならないのかなという、たまたま今日そういうところにあたったもので、思いました。

(桑原委員)

今日バスに乗る前に、4館全部比べて見たかったので、西川の図書館をひと通りぐるっと回ってみたのですけれども、まず潟東と岩室は利用者が本当に少ないという実状を見せつけられたような気がしました。本当に数人だったのでこれが現状なのかと思いました。でも、立地条件が違い、巻は駅から近いですので利用者がある程度いるのかなとか、生活圏内ですね。西川も通いやすいという感じかと思いますが、潟東と岩室は少し離れていますね。田んぼの真ん中とかそういう理由もあって来づらいのということもあるのかと思いました。

あと、潟東は見せるテクニックがすばらしくて、私は自分の探したい本をめぐりて行くタイプなのですが、つい手に取りたくなる、自分の興味のないものも、あれこれ何だろうという感じで飛び込んでくるのです。あれはすばらしいと思いました。それが岩室図書館にはまったくなくて、申し訳ないのですけれども、この図書館は何をPRしたいのか、どうしたいのかということがまったく見えなかったもので、やはりその辺を改善していくといいのではないかと思います。

(佐藤委員)

まずもって、私がお願いしたそれぞれの図書館の視察をこういう形でやってもらったことに

対しまして、会長はじめ事務局の方にまず御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

三つの図書館を回らせてもらって、それぞれ特色があり、またそれぞれの職員が頑張っているのだなということを感じました。

例えば一番初めに行った潟東の図書館、職員に聞きましたら、私どものところは、どういふふうな形で皆さんに来てもらうかという中で、雑誌とか新聞をより見やすいところへコーナーを設けているという話をしておりました。ああこれも地域の特色なのだなと感じました。

次の岩室図書館は、図書館でないような和室がありました。和室の利用者はどうか職員に聞きましたら、特定の人だけではなくて和室を利用する人がだんだん増えてきているそうです。やはり図書館の中で和室というのもいいのではないかと思ってきました。

また、巻の図書館の中で、ほかの図書館ではないような原発だけの専門コーナーがありました。これも地域の特色なのではないかと思います。それだけ調べに来る方とは聞きましたら、やはりこの地域だけではなくていろいろなところから来るという、職員ではなくて今日図書館を利用した方からの話でした。それぞれ三つの図書館も努力しながら、いかにして利用者を集めるかということに努力していると思いました。

遅くなりましたが、この決算書の中で西川図書館管理運営費というのがあります。3,200万円くらいですけれども、その中で多目的ホールの管理運営の費用というのがどれくらいあるかわかったら教えてください。

(事務局)

それだけとなると、按分してやっているところがありますので、あとでもしよろしければ資料がありますのでそれをお持ちさせていただきます。

(佐藤委員)

私どものコミュニティ協議会としても、せつかくの施設なのだから、あの多目的ホールを利用するいろいろな何かをしたいと考えている中で、あれの運営費はこれだけかかるということ、知らせるわけではないけれども頭の中に入っていれば大変ありがたいところなのです。

(事務局)

改めて時間を設けさせていただいてよろしいですか。お願いいたします。

(小林会長)

最後に、私も三つの図書館を見させてもらって、本当にそういう意味では、表情というか何か違うなという感じがしました。

普段、中央図書館といいますか大きいところばかり見ているものですから、最初、潟東の図書館へ行ったときなどは全然イメージが違って、違うのですけれども何か飛び込んでくる、

皆さんおっしゃっていましたが、そういうことがすごくすばらしいと思いました。皆それぞれに非常に特徴があったかと思うのですが、私はもともと技術屋なものですから、やはりこれだけ立派な設備をどうやってこれから維持管理していくのかな、大変だろうなど、そういう感じがしました。本当にいろいろなことを感じまして非常によかったです。ありがとうございます。

それでは本日の議事はこれで終了し、進行を事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

一つ資料の説明をさせていただきます。

資料No.1のところにも書いてありますが、これから封筒をお配りしますので、12月10日までに評価シートをお送りください。併せまして本日のアンケートというものをお配りしているのですが、アンケートの1番が地区図書館の視察をされた感想をお書きくださいというものがありまして、今日もたくさんお話いただいたのですが、感想だけではなく、こうしたらいいのではないのでしょうかというようなご提案をいただけたらとても嬉しいです。2番目、図書館の方針について、今日も図書館をご覧になられて利用が少ないところは静かだったと思うのですが、例えばそこで地域の方が集まって本を見ながら話をするなど、そういうこともあっていいのではないかという意見もあります。そのことについて、ご感想とかご意見がありましたらお書きいただきたいと思います。評価シートと併せて12月10日までに送りくださるようお願いいたします。

(司 会)

長時間の議事、大変お疲れ様でした。最後に、閉会のあいさつを高木副会長からお願いいたします。

(高木副会長)

今日はご苦労さまでございました。図書館回りに感謝したいと先ほど佐藤委員も言われましたけれども、佐藤委員がこうしてほしいという形を即それに応じてくださってこういう視察が行われ、そしてそのあとにこういう会と、とても意味のあるものを実施して下さったと感謝したいと思います。

それから、私は常に感じているのですが、ここで出た意見、あるいはあちらこちらから出た意見を即汲んで、そして対応していこうというこの姿勢、これは昔の図書館とは雲泥の差があるのではないかという感じがしました。昔は図書館といたら何か堅苦しい感じがあったのですが、そうでない。そして今、小学校の山本先生おられますけれども、やはり子どもたちを見学させる、あるいは体験させるという、西川でもやっておられると思いますが、そういうことをどんどん入れてやると、また本の普及もできてくる。それからそのほか、子ど

もだけではなくて、いわゆるお年寄りの人たちも入れたい、それから佐藤委員が言ったように自治会長の連合会のようなものがこういうところを見物するような企画ができればやってほしいという感じがします。おそらくそういうふうな要求が出てきたら、即、答えてくださるのが今の図書館の職員だという感じがします。よろしくお願いします。

(司 会)

ありがとうございました。以上をもちまして、本日の図書館協議会は終了とさせていただきます。